

トライボパソロジー研究の 今後の展望

2026年9月11日

TAS研究所
東京電機大学

鈴木 厚
松本 謙司

従来型分析との相違

項目	従来型	パソロジカル解析
対応タイプ	事後対応型	予防指向型
知識の所在	個々のベテラン	組織的共有
アプローチ	問題発生後に原因探索	パターン抽出と予防
知識継承	属人化	形式知化

マニュアル等

見えてきた課題 1 - AIツール活用の可能性と限界

現場判断とAIの役割分担

要素	現場ベテラン	生成AI
異常察知	◎ 不可欠	△ 補助
定量解析	○ 可能	◎ 効率的
原因確定	◎ 不可欠	× 判断不可
予防策立案	◎ 経験必須	△ 提案可能

見えてきた課題2 - 組織的学習への障壁

- 企業内の認識ギャップ

管理層の認識

- 不具合解決は短期的・安価に完了すべき課題

実務層の課題

- 繁忙さの中での充足感不足
- 真の解決への使命感の欠如

結果

- リソース配分不十分
- 対策費用の膨大化